

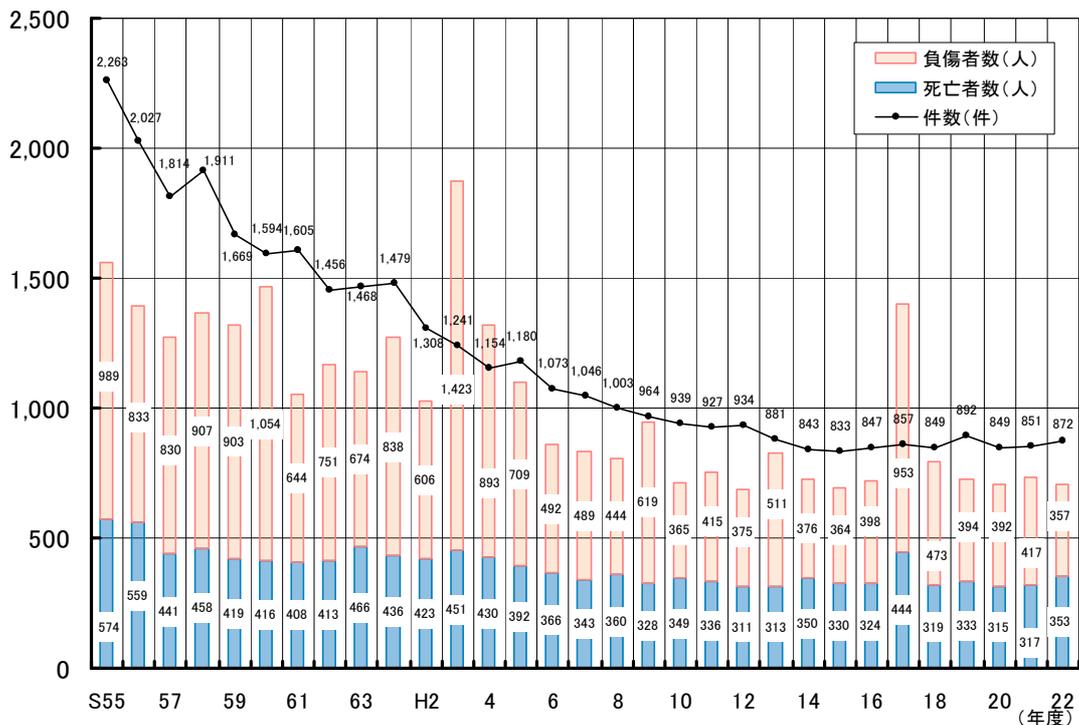
2 運転事故に関する事項

2.1 鉄軌道における運転事故の発生状況等

(1) 運転事故の件数及び死傷者数の推移

- 鉄軌道における運転事故は、長期的には減少傾向にあり、平成13年度からは800件台で推移しています。平成22年度に発生した運転事故は、872件で対前年度21件(2.5%)増でした。
- 平成22年度に発生した運転事故による死亡者数は、353人で対前年度36人(11.4%)増でした。運転事故による死亡者数は、近年ほぼ横ばいとなっています。
- また、運転事故による死傷者数は、710人で対前年度24人(3.3%)減でした。運転事故による死傷者数は、件数と同様に長期的には減少傾向にありますが、JR西日本福知山線列車脱線事故があった平成17年度の死傷者数が1,397人であるなど、甚大な人的被害を生じた運転事故があった年度の死傷者数は多くなっています。
- なお、自殺を直接原因とするものは運転事故に該当しませんが、一部に自殺かそうでないか判別できないものがあり、それが踏切障害事故、人身障害事故等として国へ報告されていると見られます。

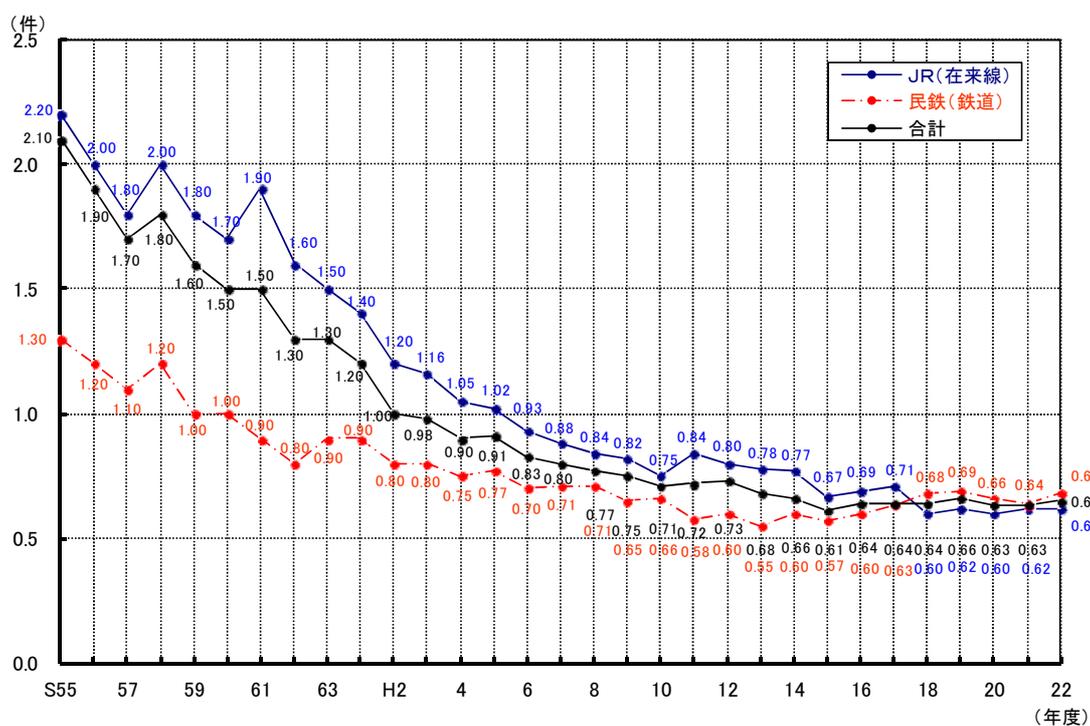
図4: 運転事故の件数及び死傷者数の推移



(2) 列車走行百万キロ当たりの運転事故件数の推移

○列車走行百万キロ当たりの運転事故件数は、運転事故件数と同様に長期的には減少傾向にあります。平成13年度からは0.6件台で推移しており、平成22年度は0.65件でした。

図5: 列車走行百万キロ当たりの運転事故件数の推移



※ グラフ中の「合計」は、JR(在来線+新幹線)と民鉄(鉄道+軌道)の合計である。

(3) 運転事故の種類別の件数及び死傷者数

- 平成22年度に発生した運転事故の内訳は、線路内やホーム上での列車との接触などの人身障害事故¹¹が463件(53.1%)で対前年度67件(16.9%)増、踏切道における列車と自動車との衝突などの踏切障害事故が301件(34.5%)で同52件(14.7%)減、路面電車と自動車との道路上での接触などの道路障害事故が91件(10.4%)で前年度と同数となっています。列車事故¹²が14件(1.6%)でした。
- 身体障害者の方が死傷した運転事故は、9件(視覚障害の方が死傷した事故が3件、肢体不自由の方が死傷した事故が6件)でした。
- 平成22年度に発生した運転事故による死亡者数は、(1)に記述したとおり353人であり、その内訳は、人身障害事故によるものが234人(66.3%)で対前年度43人(22.5%)増、踏切障害事故によるものが117人(33.1%)で同8人(6.4%)減、道路障害事故によるものが1人(0.3%)で前年度と同数となっています。
- 平成22年度に発生した踏切事故¹³は、踏切障害事故301件のほかに、踏切障害に伴う列車脱線事故が2件あったので、303件(34.7%)でした。
- 踏切事故による死亡者数は、踏切障害事故による死亡者117人のほかに、踏切障害に伴う列車脱線事故による死亡者が1人あったので、118人(33.4%)でした。
- 新幹線の列車事故は、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震の際に発生した回送列車の列車脱線事故であり、死傷者は発生していません。

¹¹ 2.1(1)に記述したように、自殺を直接原因とするものは人身障害事故に該当しませんが、一部に自殺かそうでないか判別できないものがあり、それが人身障害事故として国へ報告されていると見られます。運転事故の種類については、後掲の「用語の説明」を御覧ください。

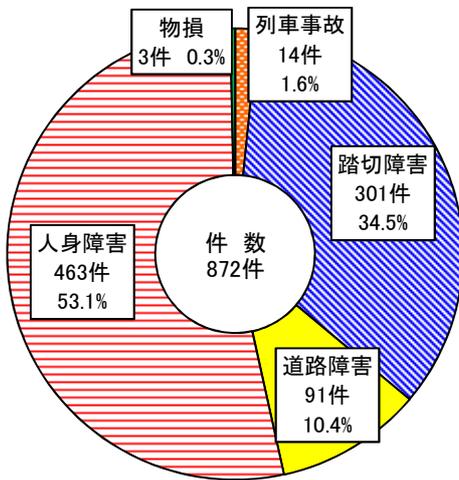
¹² 「列車事故」は、列車衝突事故(軌道における車両衝突事故を含む。)、列車脱線事故(軌道における車両脱線事故含む。)及び列車火災事故(軌道における車両脱線事故を含む。)の総称です。

¹³ 踏切道における列車と自動車の衝突であっても、それが列車衝突事故、列車脱線事故又は列車火災事故に至った運転事故は、踏切障害事故ではなく列車衝突事故等に分類されます。「踏切事故」は、このような踏切障害に伴う列車衝突事故等及び踏切障害事故の総称です。

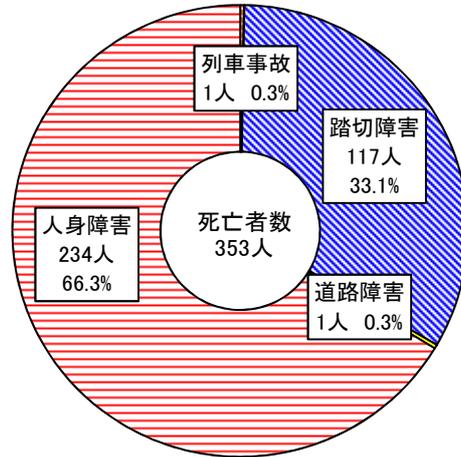
2.1(1)に記述したように、自殺を直接原因とするものは踏切事故に該当しませんが、一部に自殺かそうでないか判別できないものがあり、それが踏切事故として国へ報告されていると見られます。

図6: 運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成22年度)

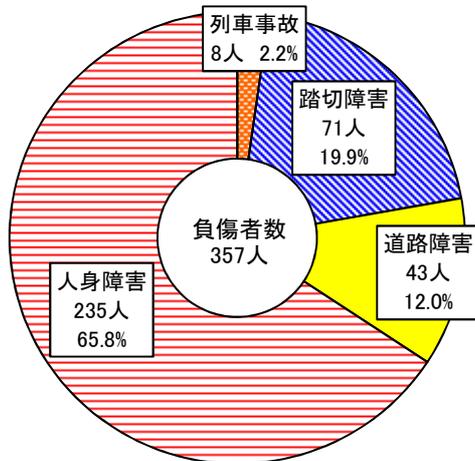
① 件数



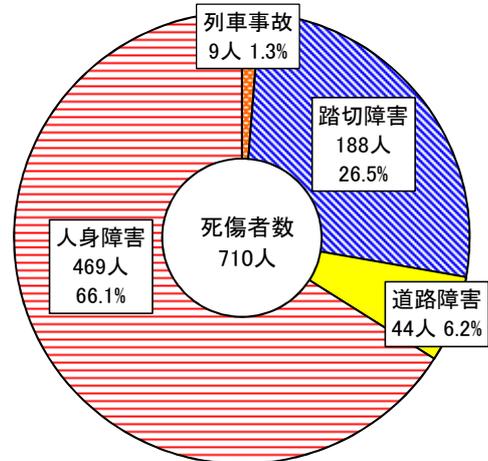
② 死亡者数



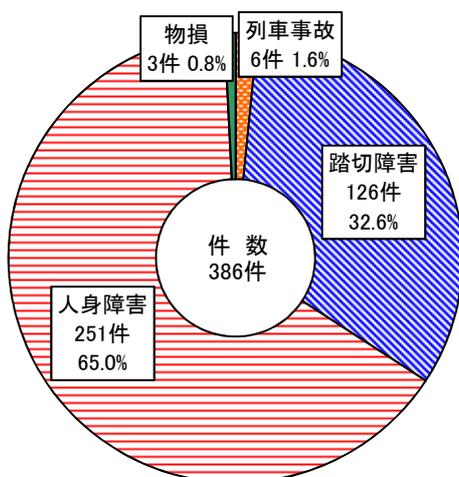
③ 負傷者数



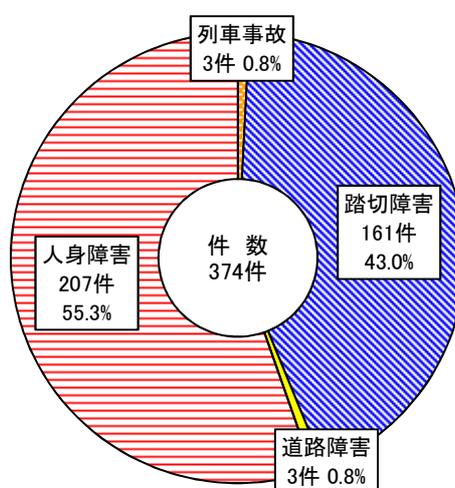
④ 死傷者数



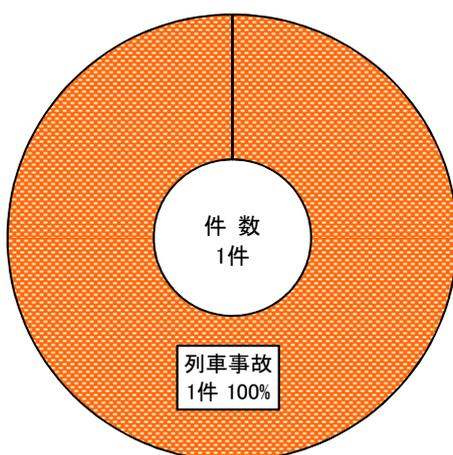
⑤ JR(在来線)の件数



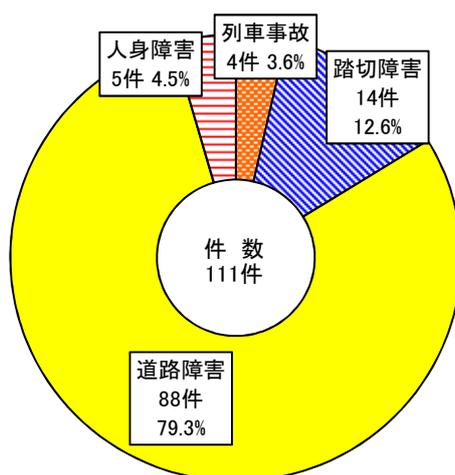
⑥ 民鉄(鉄道)の件数



⑦ JR(新幹線)の件数



⑧ 民鉄(軌道)の件数



(4) 平成22年度における重大事故の発生状況等

○平成22年度の重大事故(死傷者10人以上又は脱線車両10両以上)は、ありませんでした。

○なお、運輸安全委員会の調査対象となった運転事故¹⁴は、平成22年度発生した運転事故872件のうち13件(1.5%)でした。

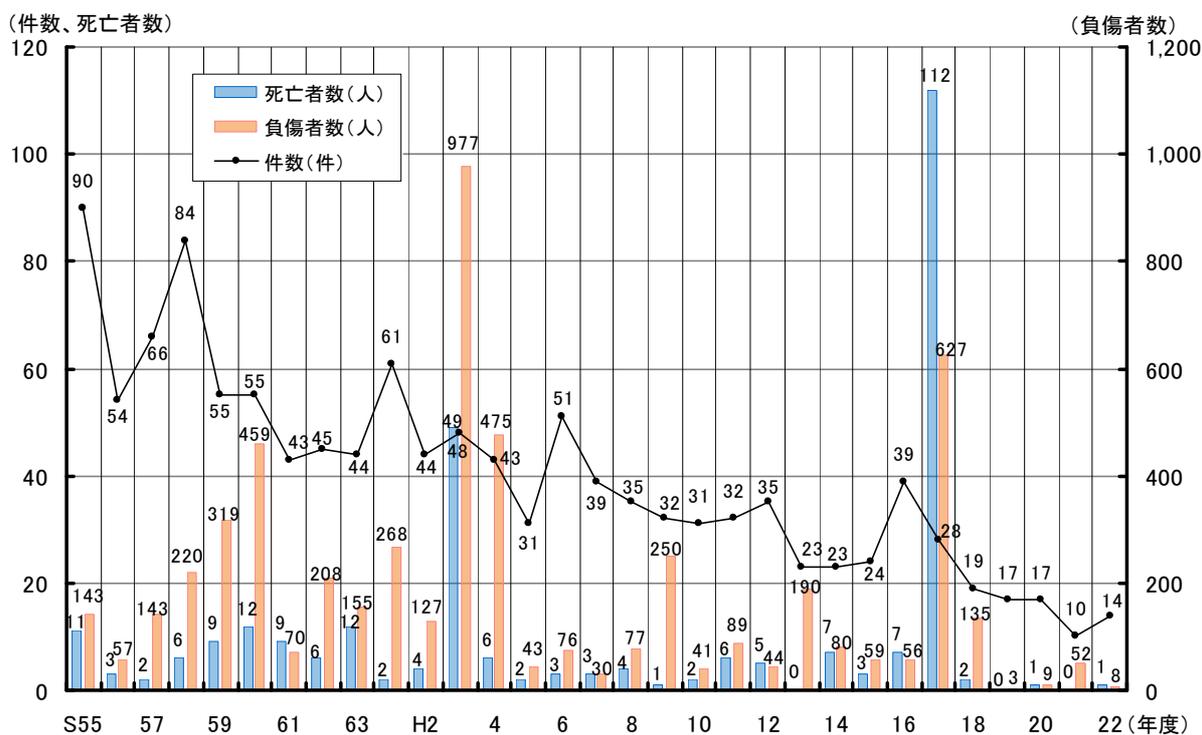
¹⁴ 運輸安全委員会が調査対象とする運転事故は、鉄道における列車衝突事故 列車脱線事故及び列車火災事故、その他の運転事故であって、5人以上の死傷者を生じたもの、乗客、乗務員等が死亡者を生じたもの等です。詳しくは、<http://www.mlit.go.jp/jtsb/index.html> を御覧ください。

2.2 列車事故の発生状況

○平成22年度に発生した列車事故は、2.1 (3)に記述したとおり運転事故全体の1.6%に当たる14件で対前年度4件(40.0%)増、これによる死亡者数は1名、負傷者数は8人でした。

○列車事故は、長期的には減少傾向にあり、平成18年度からは10件台で推移しています。

図7: 列車事故の件数及び死傷者数の推移

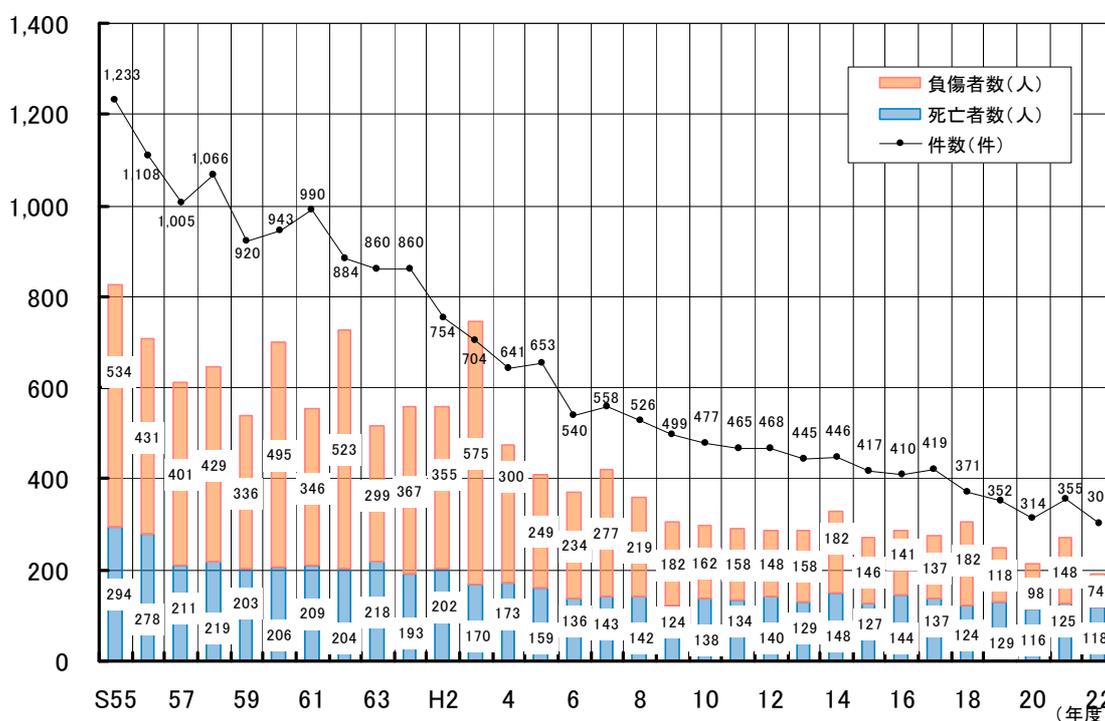


2.3 踏切事故の発生状況

(1) 踏切事故の件数及び死傷者数の推移等

- 平成22年度に発生した踏切事故¹⁵は、2.1 (3)に記述したとおり運転事故全体の34.7%に当たる303件で対前年度52件(14.6%)減、踏切事故による死亡者数は118人で同7人(5.6%)減、死傷者数は192人で同81人(29.7%)減でした。
- 身体障害者の方が死傷した踏切事故は、5件(肢体不自由の方が第1種踏切道で死亡した事故が5件)でした。

図8:踏切事故の件数及び死傷者数の推移

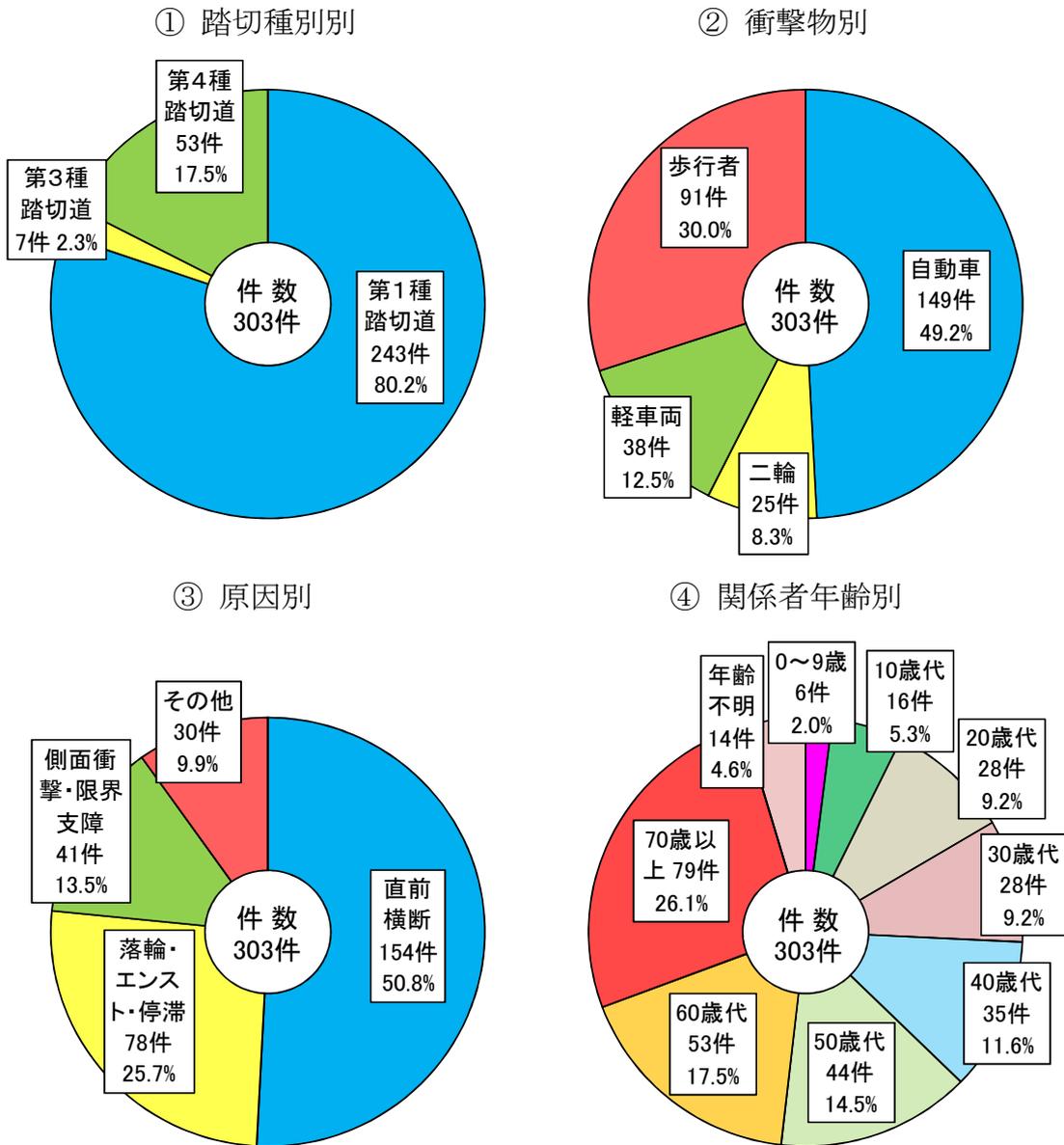


(2) 踏切種別別・衝撃物別・原因別及び関係者年齢別の踏切事故件数等

- 平成22年度に発生した踏切事故303件の踏切種別別の内訳は、第1種踏切道243件(80.2%)、第3種踏切道7件(2.3%)、第4種踏切道53件(17.5%)となっています。
- 衝撃物別の内訳は、自動車149件(49.2%)、二輪25件(8.3%)、自転車などの軽車両38件(12.5%)、歩行者91件(30.0%)となっています。
- 原因別の内訳は、直前横断154件(50.8%)、落輪・エンスト・停滞78件(25.7%)、側面衝撃・限界支障41件(13.5%)、その他30件(9.9%)となっています。

¹⁵ 脚注 13 を御覧ください。

図9：踏切種別、衝撃物別、原因別及び関係者年齢別の踏切事故件数(平成22年度)



側面衝撃・限界支障:自動車等が通過中の列車の側面に衝突したものと及び自動車等が列車と接触する限界を誤って支障し停止していたため、列車が接触したもの

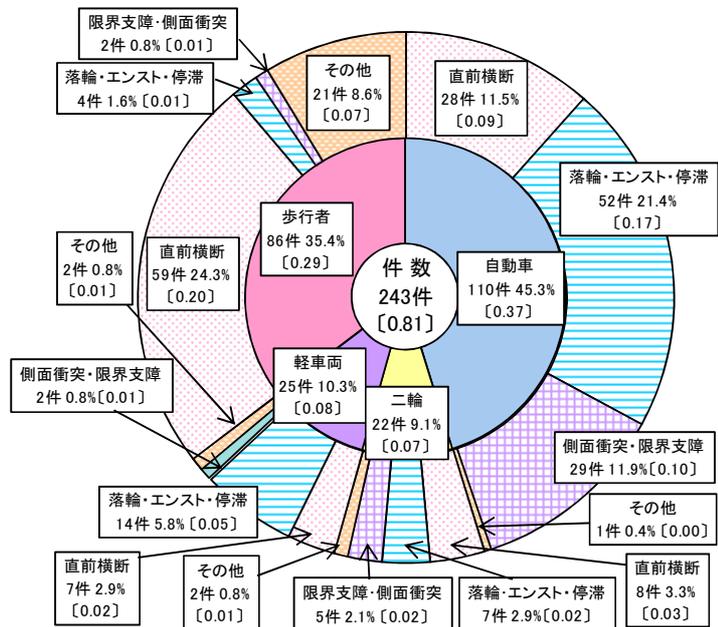
落輪・エンスト・停滞:自動車等が落輪、エンスト、踏切前後に停止した他の自動車等による進退不能等(自転車の転倒を含む。)により踏切内に停止していたため、列車が接触したもの

関係者年齢:歩行者等の年齢(自動車等にあつては、運転者の年齢)

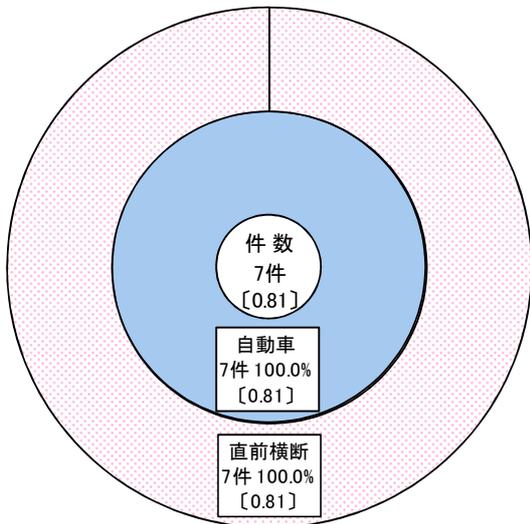
○平成22年度における踏切道100箇所当たりの踏切事故件数は、第3種踏切道が0.81件、第4種踏切道が1.64件であり、これらと比較すると一般的には道路の交通量若しくは列車の本数が多く、又は列車の速度が高い傾向にある第1種踏切道の0.81件とほぼ同数又は高くなっています。特に、自動車の直前横断による踏切事故は、第3種踏切道が0.81件、第4種踏切道が0.84件であり、第1種踏切道の0.09件よりも高くなっています。

図10:踏切種別別の衝撃物別・原因別の踏切事故件数等(平成22年度)

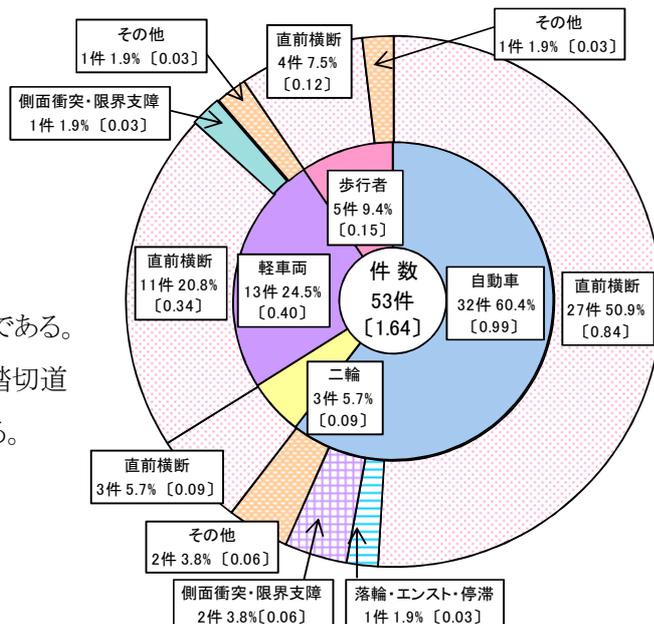
① 第1種踏切道(踏切道数 29,967)



② 第3種踏切道(踏切道数 861)



③ 第4種踏切道(踏切道数 3,230)



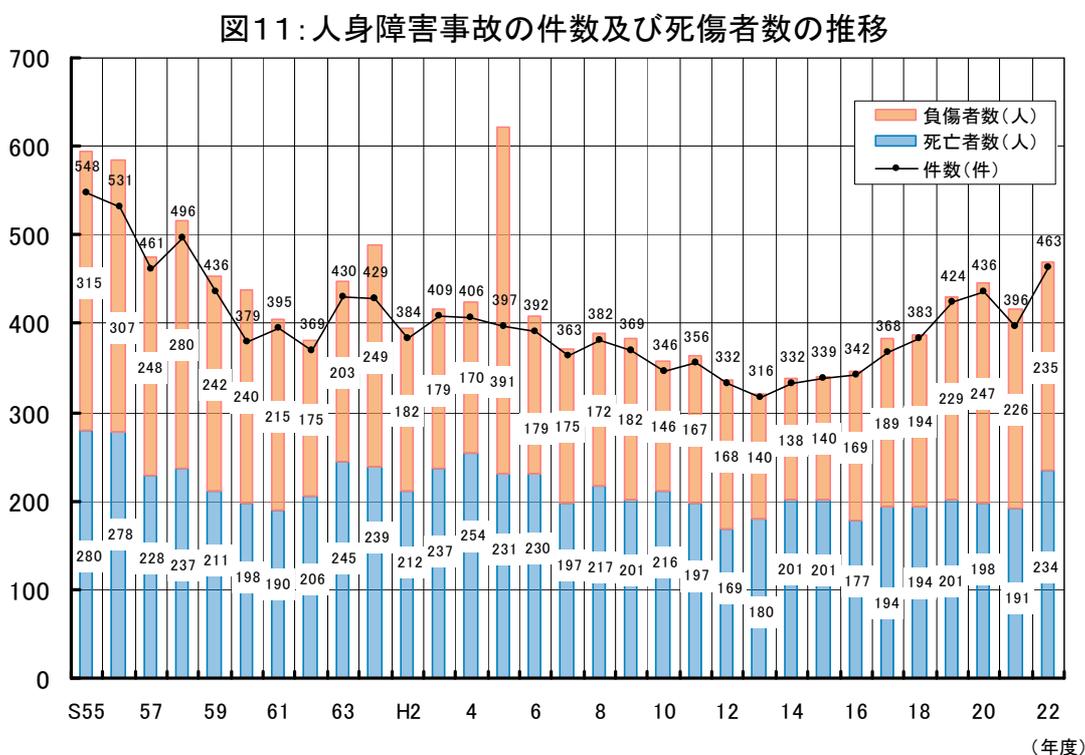
注1:踏切道数は、平成23年3月末のものである。

注2:[]内の数値は、それぞれの種別の踏切道
100箇所当たりの踏切事故件数である。

2.4 人身障害事故の発生状況

(1) 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移等

- 平成22年度に発生した人身障害事故¹⁶は、2.1 (3)に記述したとおり運転事故全体の53.1%に当たる463件で対前年度67件(16.9%)増、人身障害事故による死亡者は234人で同43人(22.5%)増、死傷者は469人で同52人(12.5%)増でした。
- 運転事故が長期的に減少傾向にある中で、人身障害事故は平成14年度から増加傾向にあります。
- 身体障害者の方が死傷した人身障害事故は4件(視覚障害の方の事故が3件、肢体不自由の方の事故が1件)でした。



(2) 原因等別の人身障害事故件数等

- 人身障害事故の原因等別の内訳は、公衆等が線路内に立ち入ったことにより列車と接触したもの(線路内に立ち入って接触)が228件(49.2%)で対前年度45件(24.6%)増、これによる死亡者数は189人で同39人(26.0%)増でした。「線路内に立ち入って接触」については、2.1 (1)に記述した自殺かそうでないか判別できないまま人身障害事故として国へ報告されているものを多く含んでいると見られます。
- 旅客等がプラットフォームから転落したことにより列車と接触したもの(ホームから転落して接

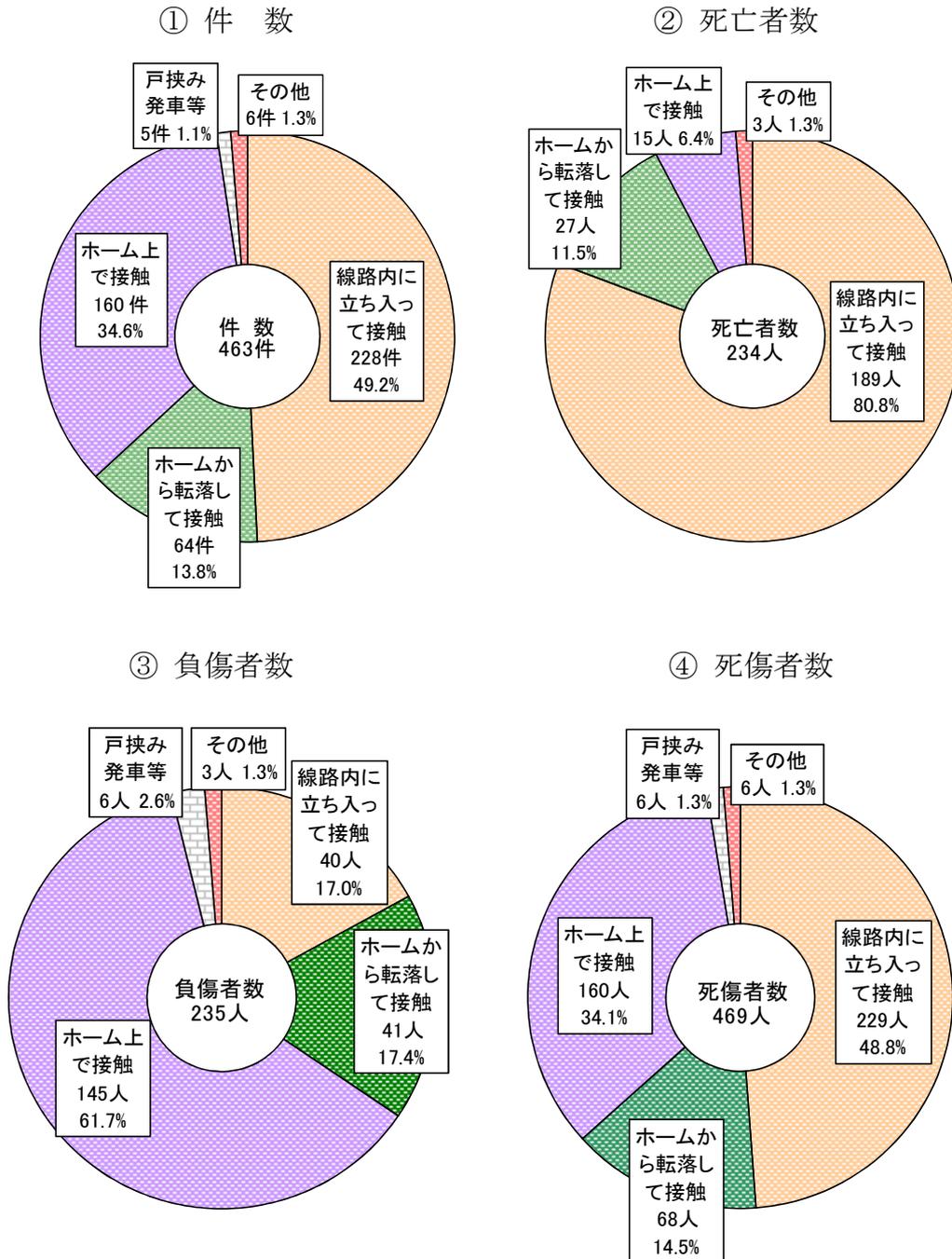
¹⁶ 脚注 11 を御覧ください。

触)は64件(13.8%)で対前年度15件(30.6%)増、これによる死亡者数は27人で同1人(3.6%)減でした。

○プラットホーム上で列車と接触したもの(ホーム上で接触)は160件(34.6%)で対前年度16件(11.1%)増、これによる死亡者数は15人で同7人(87.5%)増でした。

○乗降口の扉に手を挟んだまま列車が出発して旅客が負傷したものなど鉄道係員の取扱い等によるもの(戸挟み発車等)は5件で対前年度2件(28.6%)減でした。

図12:原因等別の人身障害事故の件数及び死傷者数(平成22年度)



○「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」を合わせたプラットホームでの事故は224件で人身障害事故件数の48.4%を占め、このうち138件(61.6%)が酔客に係るものでした。

図13:原因等別の人身障害事故件数の推移

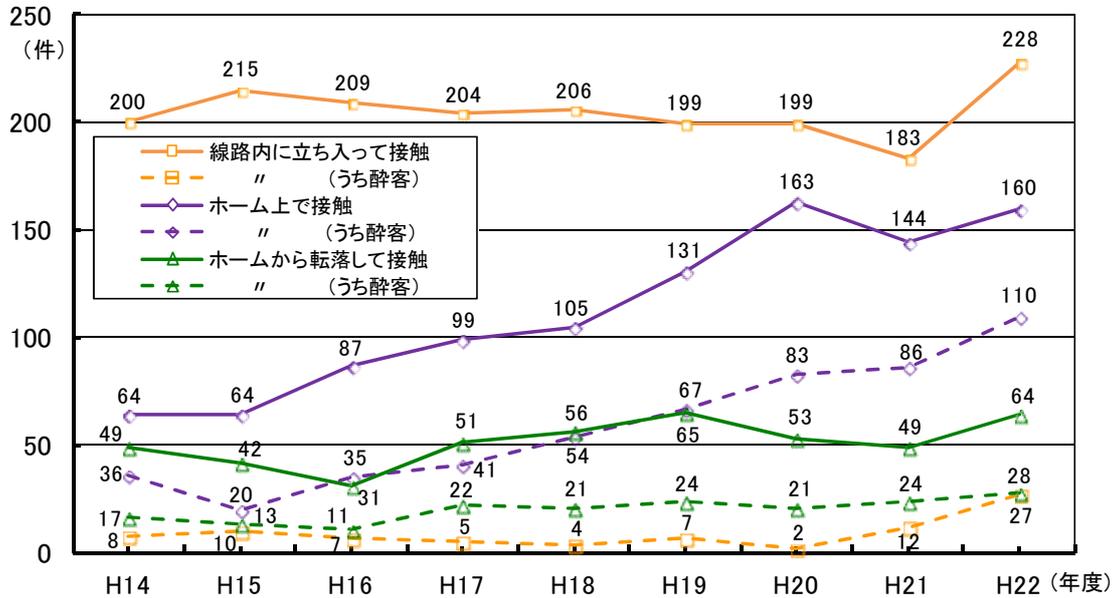
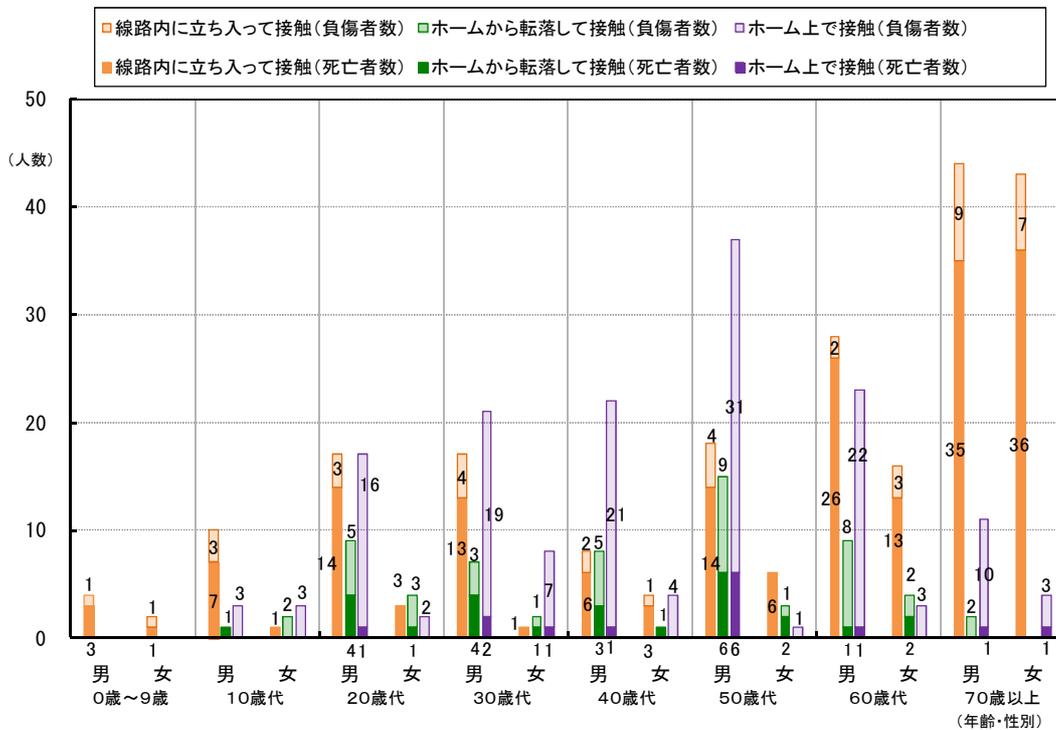


図14:人身障害事故による死傷者の年齢別人数



2.5 事業者区分別の運転事故件数

○事業者区分別の運転事故件数は、表2のとおりです。

表2: 事業者区分別の運転事故件数(平成22年度)

| 事業者区分 \ 事故種類 | 列車衝突 | 列車脱線 | 列車火災 | 踏切障害 | 道路障害 | 人身障害 | 物損 | 合計 | 列車走行 百万キロ当 たりの件 数 | 列車走行 キロ (百万キロ) |
|--------------|------|------|------|------|------|------|----|-----|----------------------------|----------------------|
| JR(在来線) | | 6 | | 126 | | 251 | 3 | 386 | 0.62 | 620.86 |
| JR(新幹線) | | 1 | | | | | | 1 | 0.01 | 138.79 |
| 民鉄等 | | 3 | | 161 | 3 | 207 | | 374 | 0.68 | 549.52 |
| 大手民鉄 | | 1 | | 91 | | 131 | | 223 | 0.70 | 317.25 |
| 公営地下鉄等 | | | | | | 50 | | 50 | 0.48 | 105.21 |
| 新交通・モノレール | | | | | | | | 0 | 0.00 | 20.66 |
| 中小民鉄 | | 2 | | 70 | 3 | 26 | | 101 | 0.95 | 106.40 |
| 路面電車 | 1 | 3 | | 14 | 88 | 5 | | 111 | 4.62 | 24.03 |
| 合計 | 1 | 13 | 0 | 301 | 91 | 463 | 3 | 872 | 0.65 | 1,333.21 |
| 地域鉄道【再掲】 | | 4 | | 68 | 73 | 23 | | 168 | 1.84 | 91.49 |
| 地域鉄道(鉄道) | | 2 | | 59 | 3 | 20 | | 84 | 1.09 | 76.99 |
| 地域鉄道(軌道) | | 2 | | 9 | 70 | 3 | | 84 | 5.80 | 14.49 |

- ※1 「大手民鉄」は、東京地下鉄(株)を除く15社です。
- ※2 「公営地下鉄等」は、東京地下鉄(株)を含みます。
- ※3 「中小鉄道」は、準大手鉄道事業者を含みます。
- ※4 「地域鉄道」は、脚注10をご覧ください。